

こぶしの花



青森中央短期大学附属幼稚園の園児たちによるじゃがいもの植え付け

特集1: 学生の就職支援 2

特集2: 東日本大震災から10年 4

青森中央学院大学 6
青森中央短期大学 10
附属第一・第二・第三幼稚園/
中央文化保育園/浦町保育園 12

青森中央経理専門学校/
青森中央文化専門学校 14
学園共通 16

vol.
105

学生の就職支援

竹内紀人キャリア支援センター長より



就職活動の成功は、本人が身に着けた能力もさることながら、どれだけ事前の準備を入念に行うことができるかが鍵となります。

本学のキャリア支援は、学生一人一人の適性に合わせたきめ細かなサポートを旨としています。基本的には、就職に向けた意識の切り替えに始まり、目標意識の形成と具体的な目標設定、そして、さまざまなセミナーや講話による知識の取得、あるいはロールプレイングによる実践的指導へと、年次に合わせて具体的な支援プログラムを段階的、計画的に進めながら、一方では支援センター窓口をメインに相談体制の充実を図っております。

最終的に目指しているのは、単なる「就職率」向上にとどまりません。就職指導の結果はもちろん重視しますが、最も大切なことは、社会に出てからも自律的にキャリア構築を続けていく力を身に着けさせることだと考えております。目標は、この世にひとつしかないそれぞれの人生を充実させていく力を育むことです。

学内セミナー・説明会



学内企業就職説明会 ▶

2021年3月2日から4日までの三日間、2022年春に卒業予定の食物栄養学科の学生を対象とした「2020年度 学内企業就職説明会」を開催し、給食委託・食品関係の企業・県内施設に参加いただきました。



◀ 学内企業就職セミナー

2021年3月1日、2022年春卒業予定の大学生らに対する企業の採用活動が解禁されたことを受け「2020年度 学内企業就職セミナー」を開催しました。約50企業が参加し、青森中央学院大学、青森中央短期大学、青森中央文化専門学校、青森中央経理専門学校の学生約240人がそれぞれ企業の説明を受けました。



◀ 看護学部病院等説明会

2021年3月25日、看護学部3年生と2年生を対象とした「2020年度 看護学部病院等説明会」を開催。20以上の県内の病院等が参加しました。

就職活動体験記

2020年度卒業生より

私は、計画的に勉強することを心がけていました。曜日ごとに科目を決め、朝起きてからは今日1日取り組む科目の分野や時間配分を決めてから勉強にとりかかりました。試験日から逆算しながらスケジュールを立てていくことで明確な目標ができ、「何から勉強したらよいのだろうか…」と悩むことなく時間を無駄にせずに勉強に取り組むことができました。また、面接対策のために、実際に市役所で働いている人にアポを取り、インタビューをしに行きました。自分がどのように働きたいのかをイメージしやすくなるので、

個別に聞きに行くことをおすすめします。

公務員試験の結果は、民間企業よりも遅く出ることが多いため、周りの友達が就職を終えていく中で焦りや不安を感じることもありますが、少し外に出て美味しいものを食べたり、かわいい文房具を使ってみたりして、自分のモチベーションを上げながら勉強を継続してほしいと思います。

青森中央学院大学 経営法学部 卒業
上道 侑希さん
(青森市役所に就職)



私は、3年次に在宅看護活動論を受講し、講義を担当された看護師の方の看護実践に感銘を受け、同じ病院で働きたいという憧れと、インターンシップに参加してぜひ就職したいという強い思いから、就業希望先を決めました。

私は、4年次の4月に就職試験に関する情報収集と履歴書の準備を、7月には面接練習をキャリア支援センターで行っていただきました。面接練習は、自宅でもイメージトレーニングをし

ました。小論文対策は、想像以上に書くことが難しく何時間も悩み、コツを掴むまで何回も書き直しをしました。8月には就職試験を受験し、9月には内定をいただくことができました。応援してくださった皆さまに感謝しながら、仕事に励みます。

青森中央学院大学 看護学部 卒業
対馬 滯奈さん
(むつ総合病院に就職)



栄養士として4月より浦町保育園に赴任いたしました。先生方に支えていただきながら日々奮闘しております。就職活動を行うにあたり『キャリアプランニング』という授業のなかでの学びや、『就職支援セミナー』に参加したことが内定につながったのだと思っています。またキャリア支援センター職員の方々に大変お世話になりました。

赴任してひと月ほど経ちますが、やはり、献立のレパートリーを在学中に増やしておけばよ

かったと思っています。学生時代に自分で立てた献立だけではなく、クラスメートの献立も参考にしながら今の仕事に取り組んでいます。日々の授業での学びに加え、自分で実際に料理をし「感覚」を身に付けておくことも大切だと感じています。

青森中央短期大学 食物栄養学科 卒業
小倉 未来さん
(浦町保育園に就職)



私が就職活動するにあたって重視していたことは、自己覚知、自己決定です。ある程度方向性を決めておくことで、情報収集がスムーズにできました。求人検索やホームページだけでは得られない情報も、見学や説明会に行くことにより、聞くことや感じる事が可能となります。また、コロナの影響で思うように行動ができないことがある一方で、コロナだからこそ、手厚い見学や説明会に参加することができました。

保育士は就職率が高いといわれます。就職活動を通して感じたことは、首都圏での求人選抜数は8月から徐々に少なくなっていくというこ

とです。そのため、早めの行動を心がけることが必要だと思います。

今ある環境をふまえ、先を見据えながらどのように行動していくかが大切だと考えます。自分の経験をどう就職先で活かすことができるのか、自信を持って就職活動に挑戦してください。

青森中央短期大学 幼児保育学科
長期人材育成コース(保育士養成科) 卒業
仲野 暖子さん
(社会福祉法人育英会明日香保育園に就職)



私は、有限会社テックより内定をいただきました。医療事務コースを選んだ理由は、将来、医療分野で仕事をしたいと思い、高校3年生の時に参加した進路説明会で青森中央経理専門学校の説明を聞き、医療事務・調剤事務に役立つ資格が取れるだけでなく、IT分野・ビジネス分野・簿記分野も合わせて学習することを知り、将来に役立つ資格が取れることに魅力を感じて進学を決めました。

医療事務コースでは、病院と調剤薬局で実習を経験することができるので、自分の就職に

対する意識も強くなりました。初めて勉強することは多かったです。友人達と共に学び、さまざまな資格を取得できた2年間は本当に思い出深い記憶となりました。卒業後は、笑顔を忘れず、患者様に安心してご利用していただける調剤事務員になれるように頑張ります。

青森中央経理専門学校 医療事務コース 卒業
木村 笑理さん
(有限会社テック テック調剤薬局に就職)



東日本大震災から10年

～復興支援から、地域防災への取り組みへ～

2011年3月11日の発災から10年を迎えるにあたって、本学園のこれまでの活動を振り返ります。また、大震災から得たさまざまな教訓をもとに、未来の大規模災害を見据えた地域防災の重要性を再認識し、本学で力を入れている防災教育や地域での取り組み等についてご紹介します。

2017 ▶ 2017



▲ 2011年3月11日
震災当日の本学図書館の様子



◀ 2011年4月15日
岩手県野田村にてボランティア活動



▲ 2011年10月14日
宮城県石巻市にて復興支援コンサート開催



◀ 2012年2月24日
岩手県宮古市にてボランティア活動



▲ 2012年7月22日
本学学术交流会館にて復興支援チャリティコンサート「TRY Again Aomori」をNPO団体と共催で行う



◀ 2014年10月25日
本学2号館1階学生ラウンジにて、復興支援チャリティコンサート「THE JAZZ SESSION ～音の力・思いの力～」を開催

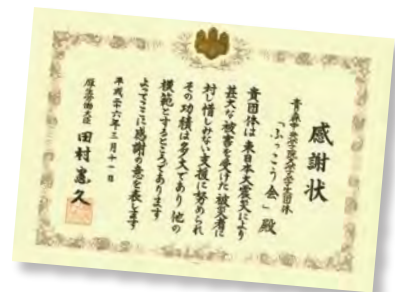


● 2013年12月16日
青森中央学院大学学生団体「ふっこう会」による1回目の「～思いをのせて、福島の子どもたちへ元気便を～」実施。福島県南相馬市の公立幼稚園2園に対し、クリスマスプレゼントとして青森リンゴを贈りました。



● 2014年3月10日
「ふっこう会」による2回目の元気便実施。福島県、宮城県、岩手県の幼稚園・保育園に青森リンゴを贈りました。青森リンゴの元気便はこの後も続けて行われ、計4回、27ヶ所の幼稚園、保育園に贈りました。

● 2014年3月11日
厚生労働省より「東日本大震災における被災者の支援活動等に対する厚生労働大臣感謝状」をいただきました。「ふっこう会」は、元気便の他にも、岩手県野田村にある仮設住宅に住む方々と交流会を行ったり、福島から県外に避難している方々を観光に招待するなど、地域の団体等と連携しながら学生の視点で東日本大震災の復興支援に取り組まれました。
現在は、「ソーシャルビジネス研究サークル」として、ビジネス的な手法を用いて社会的課題の解決に取り組む活動を行っています。





2018 ▶ 2021



◀ 2018年5月14日
特定非営利活動法人青森県防災士会との
連携協力協定を締結



▲ 2019年2月7日
青森中央学院大学・青森中央短期大学・青森
明の星短期大学、横内地区まちづくり協議
会が共同で実施する、大学連携公開講座
「災害時の避難所運営を学ぶ」開催



▲ 2019年9月28日
青森市立横内中学校を会場に開催された
青森市総合防災訓練に、青森中央学院大学
学生防災組織DESTのメンバーが参加



▲ 2019年10月11日
地域住民と本学看護学部保健師課程の学生
が青森市妙見地区で、地域防災の大切さを学
ぶ防災訓練を行いました



▲ 2020年9月27日
「あおり防災体験ひろば」で、青森市学生
消防団に所属する学生が活動しました



▲ 2020年12月6日
本学で開催された防災士養成講座



▲ 2021年7月3日
青森中央短期大学公開講座「災害・防災を
もういちど自分事として考える」オンライン
講座を開催します。

DESTの活躍

青森中央学院大学 経営法学部 大泉 常長 教授

東日本大震災の発生から10年目を迎えた今日、本学は「防災に強い大学」を目指し、地域防災への貢献を視野に入れた様々な取り組みに力を入れています。近年、この分野への関心を持つ学生が増加傾向にあり、地域防災のリーダー育成を目的とする『防災士養成講座』には、毎年、経営法学部、看護学部から50名以上の学生が登録し、防災士の資格取得に挑戦しています。

また、本学では、2019年度より、防災士に認定された学生が活躍できる場を提供すべく、学生による自主防災組織“DEST (Desaster & Emergency Support Team)”を再稼働させています。DESTに参加する学生たちは、勉強会を通して危機管理の基本となる「自己防衛(セルフディフェンス)能力」を向上させながら、

地域の方々を対象とした啓蒙活動やボランティア活動を行っています。

現在は感染症対策により、思うような活動ができていませんが、こうした活動が地域社会でも課題とされている「防災士の活用」に向けた大きな足掛かりとなるのではないかと期待されています。





「縄文サイクリングマップ」を作成しました

「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録に向けて機運を高めようと、経営法学部の内山清教授のゼミ生が中心となり、青森県サイクル・ツーリズム推進協議会の協力を得て「縄文サイクリングマップ」を作成しました。

マップには「青森ルート」と「五所川原・つがるルート」のふたつが掲載され、各エリアの縄文遺跡や縄文関連スポット、博物館や飲食店などの立ち寄りスポットを巡るサイクリングルートが紹介されています。コースを決めるにあたって、学生たちは現地を実走して情

報収集を行いました。また、自転車で走行するにあたってのルールやマナーについての注意事項も掲載し、安全走行の啓発も行う内容となっています。マップは青森市内の観光施設等で無料配布しています。



キャリアプランニング講義「企業とSDGs」

国連加盟国が2030年までに達成する17の目標を掲げ、世界中で取り組んでいるSDGsは、日本国内でも持続可能な経済や社会づくりのためにさまざまな取り組みを展開しています。企業等の採用試験でもテーマとして多く取り上げられることから、本学の経営法学部生を対象とした今年度のキャリアプランニング講義に「企業とSDGs」についてのプログラムを取り入れ、企業の取り組みについて学生に紹介しています。

2021年4月30日、経営法学部3年生を対象に行われた講義では、講師にリコージャパン株式会社青森支社の

坂本建光氏を招いてSDGsの現況や実践事例についてお話いただきました。グループ全体の経営の中心にSDGsを据えているリコージャパンは、昨年の「日経SDGs経営大賞」で大賞を受賞した企業です。世界的な動きや国内での取り組み、そのゴールを知ることなど、SDGsへの理解を深めました。



公開講義「暮らしと地域」開催中

本学では地域に根ざした高等教育機関として、県内さまざまな分野で活躍している方々を講師としてお招きし、郷土の歴史・産業・文化等について学生と地域の方々が共に学ぶ、『青森中央学院大学公開連続講義』を開講しています。

2021年4月21日、第一回目の伊奈かつぺい氏による講座「言葉で遊ぶのが一番安あがり」は、感染症対策により5月8日に延期し、当日の聴講を本学学生のみに変更して開講しました。また、4月28日の下山昭義氏による「津軽三味線の魅力」も同じく学生限定で開講しました。下山氏は津軽三味線の演奏や、歌い手・太鼓・手踊りを交えた津軽民謡などを披露し、その魅力を語りました。なお、当日の動画をWEB公開(要申込)しておりますので、詳細は本学HPをご覧ください。

今年度の公開講義は7月7日の回が最終となりますが、今後も感染症予防対策を講じながら、安全に留意して開講して参ります。



花植え活動

2021年4月17日、青森市の新町通りで開催された花植え活動に、留学生を含む本学の学生7名が参加しました。

昨年はコロナ禍で中止でしたが、感染症予防対策を講じて行われた2年ぶりの花植え活動には、新町商店街の各店舗や行政、青森商工会議所、NPO法人、学生団体、一般市民等、例年より多数の方が参加しました。青森駅前から新町通りを経た柳町通りまでの商店街に設置されたプランターには、参加者が協力して色とりどりの花が丁寧に植えられ、青森市中心市街地一帯が花で彩られました。

青森市のメインストリートを訪れた際には、是非、プランターの花にご注目ください。この花植え活動は、次年度以降も継続して行っていく予定です。来年春の花植え活動には、また多くの皆様にご参加いただければと思います。





国際交流課から



ポロシャツデザイン決定

青森中央学院大学では、青森県内での国際交流・地域貢献の促進、母国との架け橋の役割として、また在籍する留学生自身の成長・研鑽を目的として、県内行政・教育機関などに国際語学サポーター（留学生）を派遣しています。その活動時に着用するACGUオリジナルポロシャツデザインコンテストが行われ、日本人学生・留学生から9作品の応募がありました。厳正な選考の結果、ベトナム人留学生ルオン・ビック・トゥイさんの作品が最優秀賞に選ばれました。

完成したポロシャツを副賞としてトゥイさんに進呈しました。ACGUの文字と青森をイメージしたイラストがライトブルーのポロシャツにととてもよく映えます。今後、このポロシャツを着た留学生が学内外のさまざまな国際交流活動で活躍してくれることを期待しています。



卒業生からメッセージ

2020年秋卒業生のレ・ティ・スアン・ツです。現在は、株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバルにて勤務しております。母国のベトナムも含めて、発展途上国において主にインフラ開発のプロジェクトをコンサルティングしている会社です。所属する部署は、海外におけるプロジェクトを、東京本社から事務的な面でサポートする部署です。業務内容は、プロジェクトを遂行する上で発生した収支報告書の確認と報告、勤務簿の確認と報告などです。学生時代に学んだビジネスに関する知識と日本での組織文化の実体験を活かして、日本と母国の架け橋として仕事するという私の希望が実現できました。

コロナ感染拡大に伴う在宅勤務が多いため、分からないことがあってもすぐに対面で上司に質問することができませんが、新人の私にとってはメールでのやり取りが意外に勉強になりました。在学生のみなさん、特に就活をしている皆さん、今は大変困難で未曾有な状況ですが、困難の中にこそ挑戦する価値があります。臨機応変な対応力を身につけて頑張ってください。



「情熱無限大AOMORISIX合同学修研究発表会」より

産官学が一体となり、地域・大学の活性化と魅力あるまちづくりを推進する「青森市産官学連携プラットフォーム」は、青森市、青森商工会議所、青森市内6大学（青森公立大・青森県立保健大・青森大・青森中央学院大・青森中央短大・青森明の星短大）が連携し、意見交換会や合同進学説明会等さまざまな事業を展開しています。

連携事業のひとつである「情熱無限大AOMORISIX合同学修研究発表会」は、学生が日ごろの学修研究成果を年に一度発表するものです。会場では各大学の代表チーム・個人によるステージ発表と、多数のポスター発表が行われ、大学での多彩な研究活動を高校生や一般の方が気軽に知ることができる機会となっています。2021年2月の発表会は感染症対策のため特設WEBサイト上での開催となり、本学・短大からステージ発表2チームと、ポスター発表28のチーム・個人が出場しました。



〈ステージ発表〉

●学生団体For Aomori「パンフレット配布による飲食店支援活動報告」

市内飲食店で取り組むテイクアウトメニューの紹介がWEB中心のため、特に高齢者世帯へ情報が届きにくいことから、メニューなどを掲載したパンフレットを作成・配布することで飲食店支援を行いました。

●青森中央短大 浜中研究室「豆腐クリームを使用したフレイル対策のための簡単料理の考案」

〈ポスター発表〉

- 経営法学部 内山清教授ゼミ学生より（8テーマ）
- 経営法学部 成田昌造教授ゼミ学生より（3テーマ）
- 経営法学部 山本俊准教授ゼミ学生より（11テーマ）
- 青森学生団体ディベラボ活動報告2020
- クアウォーキングを支えようサークル活動報告
- 青森中央短大 食物栄養学科学生より
- 青森中央短大 幼児保育学科学生より（2テーマ）
- 青森中央短大 専攻科福祉専攻学生より



看護実践センター講演会を開催しました

「看護師特定行為の活用状況と青森中央学院大学における研修報告」

看護実践センター長 一戸 とも子

4月24日、看護師特定行為研修修了者の2人と研修中の2人によるオンライン報告会(参加者43名)を開催いたしました。厚生労働省は、本研修をチーム医療の促進、これからの少子高齢社会へ対処するために強く推進しています。

今回の報告から、特定行為を必要とする方にタイムリーにその行為を提供することで、質の高い看護実践が可能となるという意義を改めて痛感しています。また、研修生の研修受講の目的には、自らのより良い看護を目指して実践能力の向上を図りたいということがあり、本研修はその目的に叶うものです。この制度が医療・福祉の場に根づくには、もう少し時間が必要だと思いますが、多くの方に、本研修に挑戦して頂けることを願っています。



保健師教育課程での実習の学びとその経験を活かして

看護学部4年 小山内 香乃

保健師教育課程では、3年次に個人・家族・集団・組織の支援実習を行います。本実習では、地域の方々にご協力をいただき、家庭訪問・健康相談・健康教育などを行いました。また、学園祭「翔麗祭」で学生が作成した資料をもとに実際に健康相談を行うことで、対象者の健康支援を行いました。本実習での学びを地域の方々と共に共有し、学びを深める機会も得ることができました。さらに、地域の方々とは直接かかわることにより、対象者に寄り添った視点で健康支援をする技術を身につけることができました。

私はこれらの経験を活かし、対象者がその人らしく健康な生活習慣の確立をしていくことができるように、対象者の強みを活かした活動を行うことができる保健師になりたいです。



オープンキャンパスサポーターを経験して

看護学部3年 中谷 真緒

私は、何か人のためになるボランティア活動がしたいと考え、2年次からオープンキャンパスサポーターに参加しました。キャンパスツアーでは、実際に校内を歩き、案内します。案内の中に、自身の大学生活での過ごし方を交え、大学の雰囲気や少しでも高校生の方々に知ってもらおうと努めました。また、受験を考えている高校生の方々から、自身の高校時代のことや、入学方法、実際に入学してどうだったかなど多くの質問を受けたことは、オープンキャンパスサポーターならではの貴重な体験だと思います。また、達成感でもありました。

最初は緊張しましたが、より良いキャンパスツアーを提供しようと自主的に行動することで、積極性が身についたのではないかと感じます。興味のある方は、オープンキャンパスサポーターに参加してみたいかどうかでしょうか。





「ひらめき☆ときめきサイエンス」採択されました

「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」とは、小学校5・6年生、中学生、高校生が、大学で「科研費」(KAKENHI)により行われている最先端の研究成果をじかに見て、聞いて、触れることで、科学のお

もしろさを感じてもらうプログラムです。

日本学術振興会より2021年4月1日付でこのプログラムの交付内定発表があり、本学からは今年度2件採択されました。申込受付は6月開始です。

プログラム①

「人体解剖学を活用して 安全な注射の場所を探してみよう!」

- 実施代表者:看護学部 教授 三國 裕子
- 実施日:2021年8月5日(木)
- 対象:高校生



写真は昨年度の様子です。

プログラム②

「発掘人骨を鑑定してみよう! ～骨から広がる古病理の世界～」

- 実施代表者:看護学部 准教授 藤澤 珠織
- 実施日:2021年9月25日(土)
- 対象:中学3年生～高校3年生



写真は昨年度の様子です。

2年次の抱負 日々学習、「飛翔式」は主体的に

看護学部2年 阿部 春華

1年次の反省を踏まえて、2年次は日々の学習に力を入れたいと思います。1年次はテストが近づいてからノートをまとめ直したり、対策を始めたりしたため全ての範囲を勉強することが出来ない教科もありました。この失敗を活かし、習ったところをすぐにまとめ直してそのままテスト勉強に活用できるような学習を日常に取り入れていきたいです。

2年次は学業以外にも力を入れたいと考えています。10月に行われる「飛翔式」では、それに向けた講演会や学生同士の話し合いを経て、自分の将来像やこれからの大学生活の目標を確立できるように主体的に臨みたい。また、サークル活動では同じサークル内の学生や地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力をより高めたいと思います。



学生献血推進サークル DOTSの活動について

看護学部4年 柿崎 美優

学生献血推進サークルDOTSでは、近年減少しつつある若年層の献血推進のために活動しています。主に、商業施設での呼びかけやキャンペーンの企画・立案をする献血会議を行っており、中には県の実行委員として全国の学生とともに活躍している人もいます。

昨年度から、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で通常通りの活動はできていませんが、メッセージカード作成や学園祭でのブース設置、献血セミナーの実施など感染リスクを最小限に抑えた活動に積極的に取り組んでいます。私たちは、今後も多くの学生の皆さんに献血に興味を持っていただけるよう活動していきます。

また、十分に血液が患者さんに行き渡るためには皆様のご協力が不可欠です。皆様のご協力よろしくお願い致します。



3月春のオープンキャンパス

幼児保育学科准教授 木村 貴子



昨年はコロナで中止が相次いだオープンキャンパスでしたが、短大初の春のオープンキャンパスを今年の3月に開催することができ、大盛況のうちに無事終了しました。今回は両学科の企画に「未来ナビ」を加え、卒業生で活躍中の栄養士と保育教諭の二人をゲストに、職業の魅力や取得した資格がどのように現場で活かされるのか、そのためには在学中どのように自分と向き合い頑張ればよいのか等、高校生が知りたいポイントについて詳しくお話していただきました。来場して下さった保護者の皆さんも含め、参加した高校生の皆さんは真剣な表情で一生懸命耳を傾けていました。

キャンパスツアーではオープンキャンパス学生スタッフが授業等で使用する教室や設備を説明し、緊張しながらも先輩らしい姿を見せてくれました。食物栄養学科は企画展示コーナーや個別相談、幼児保育学科ではピアノに関する授業紹介や保育者に必要なコミュニケーション技術について各先生方から講話やワークショップがあり、デジタルオープンキャンパスでは叶えることのできなかった参加者と本学教員、在学生との交流の場として大いに賑わっていました。今後は、7/3、8/8、来年の3/26に開催予定です。オープンキャンパス学生スタッフと教員一同、楽しみにお待ちしております。



ヘルスコミュニケーションを用いた食育活動の展開事業 関連施設の園児と一緒にみそ作り

食物栄養学科講師 浜中 幸美

本学園の園児を対象とし、「五感で育む栽培・加工、調理体験」をテーマに始まった大豆の栽培、収穫、みそ作りの企画。昨年5月末に学園敷地内、及び、各園に種を植えた大豆は、10月に収穫を終えました。初年度という事もあり、出来は今一つではありましたが、無事大豆の生産は終了となりました。

と塩と混ぜてみそ樽に仕込んでいきました。作成したみそは各園で保管し、2021年度の末ごろには試食できる予定です。

事前に園児に大豆やその加工品について講話を行い、今年1月から各園でみそ作りの指導及び実習を行いました。軟らかく煮たはずの大豆をつぶすのに四苦八苦。足で踏んだり、こぶしでぐりぐりつぶしたり。皆で協力し、麴



学生による、食育啓発冊子

「AOMORIおとなのおうちごはんBOOK」の献立作成

食物栄養学科講師 浜中 幸美



本学の学生に青森県から食育啓発冊子の献立作成の依頼があり、2019年度は若者がターゲットでした。2020年度は40歳代～50歳代の働き盛り世代で、テーマは「免疫力を高める食事」及び「家族みんなで楽しく食事」です。前年度同様「フードスペシャリスト」を履修する学生の課題とし、メニュープランニングの実践としました。

ドレッシング添え～、ベトナム料理を参考にした「ベトナム風フライドアップル」の4種類を選出しました。県産品を美味しく上手に食べる工夫を施したメニューをぜひお試しください。

提出された献立の中から、ホットプレートで加熱調理工程を行い、家族でワイワイできる「ホットプレートdeカレーパエリア」、調味料を間違えるという失敗がヒントとなった「えだまめのビシソワーズ風」、市販のドレッシングを利用した野菜量アップの「バイビーリーフのサラダ～にんじん





ビオトープサークルの活動

幼児保育学科助教 具志堅 裕介

2021年4月15日、ビオトープサークルは附属第一幼稚園の子どもたちと一緒に活動しました。新しい年度となり、ビオトープでの活動を楽しみにしていましたが、天候の影響で幼稚園内で活動することになりました。園内では、学生が授業で作成したビオトープすごろくやじゃんけん列車などで交流し、とても楽しい時間となりました。来月はビオトープで活動したいです。暖くなるのが待ち遠しいです。

ビオトープサークルでは、子どもたちとビオトープで遊びながら、生き物の大切さや自然を使った遊びなど地域の自然や生態系について学ぶことができます。子どもたちが地域に生息している生き物や植物に興味を持ってもらえるように活動しています。



「ちゅっぴいクッキー缶教室」開催

学生プロジェクト「食べよう青森♪樹の実プロジェクト」では、キャンパス内に自生する植物や果樹等を使用し、毎年お菓子教室を開催しています。今年度1回目は、5月1日に「ちゅっぴいクッキー缶教室」を開催しました。

学内で収穫した「樹の実(くるみ、カシス)」を生地に練り込んだクッキーや本学のキャラクターちゅっぴいの型抜きクッキーを作り、ちゅっぴいのイラストがプリントされたオリジナル缶に詰めました。また、思い思いの楽しい形のクッキーもたくさん焼き上がりました。クッキーは小さなお子さんでもできる作業が多く、親子で楽しい時間になったと思います。今後も学内で収穫できる樹の実等を使用してイベントを開催していく予定です。



福祉セミナー「ロボットがサポートする近未来の介護を体験しよう」開催

専攻科福祉専攻准教授 伊藤 三月

2021年2月20日、青森中央短期大学福祉セミナー「ロボットがサポートする近未来の介護を体験しよう」が開催されました。

はじめに、リコージャパン青森支社と東北医療・介護ロボット普及協会による、介護ロボットの歴史、及び、紹介等がスライドで行われました。その後、参加者がそれぞれ5つのグループに分かれ、グループ毎にアシストスーツのHALや見守りベッドセンサー等の介護ロボットに実際に触れ、体験しました。また、本学専攻科福祉専攻で介護を学ぶ学生には、日々の学習の中で使用している介護用のリフトや浴槽等の体験を行っていただきました。

介護に興味関心のある高校生をはじめ、幅広い年代の方々々が介護ロボットの体験や、介護に関する用品等の説明を受けながら実際に触れてみるなど、盛況のうちに福祉セミナーは終了しました。



「管理栄養士国家試験」で3名合格

食物栄養学科助教 辻村 明子

食物栄養学科の教員による「管理栄養士免許取得のための勉強会」は、例年より多い26名の申し込みがありました。栄養士キャリアの長い方や、受験資格を得る前の卒業直後の若い方、さらには一般からも学習したいとのことで多くの方に申し込みをいただきました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面による講義からSNSを利用した質疑応答の形式に変更しての実施を余儀なくされました。

2月に行われた「第35回管理栄養士国家試験」には、勉強会参加者のうち9名が受験し、見事3名が合格。仕事と受験勉強とを両立させキャリアアップへとつなげることができました。

今年度はオンラインによる勉強会開催を予定しております。勉強会は国家試験受験のためだけではなく、日常業務にもつながる内容となっており、学び直しの機会にもなります。卒業生に限らず、皆様の生涯学習の場としても活用していただければ幸いです。



附属第一・第二・第三幼稚園／ 中央文化・浦町保育園

教育方針

健康で明るく心豊かな子ども

●友達と仲良く遊ぶ。

●思ったことははっきり話す。

●よく見、よく聞き、よく考える。

●自分のことは自分でやる。

附属第一幼稚園



幼稚園のキャラクター、パンピーがついた新しいバスに乗って、たくさん出かけようよ！



ドキドキの入園式
名前が呼ばれて元気にお返事ができました☆



ビオトープへ春を見つけに出かけたよ！

中央文化保育園



今年も満開で一す
桜の下で楽しく遊んでいますよ！

附属第二幼稚園



キラキラ青い空！
桜の木の下でお花見をしたよ。



シャボン玉とんだ～大きいのできるかな？



グラグラ～倒れないようにできるかな！！

浦町保育園



4月17日、みんなにこにこ、
えがおいっぱい入園式でした。

附属第三幼稚園



入園式
年長組の初パフォーマンス披露



一学期始業式
進級したカッコいい姿です



大好きな給食 残さず食べます
よく噛んで～♪



うめ組、はじめての共同製作をしました。
こいのぼりが風にそよそよゆれているのを見て
喜んでいます。

先生達活躍しています

先生としての喜び

附属幼稚園に勤めてから、20年以上が経ちました。

ここまで保育士を続けてこられたのは、毎日、元気いっぱいの子どもたちからパワーをもらい、先生たちとも楽しくお仕事ができていからだと思います。そして、何より一番この仕事をしていて嬉しいことは、卒園児が、小学校・中学校・高校の入学・卒業を機に、幼稚園に会いに来てくれることです。最近では、保護者として幼稚園の入園見学に来る卒園児も増えてきました。そんな、立派に成長した姿を見ることができて、「本当にこの仕事をしていてよかったなあ」

認定こども園附属第三幼稚園
大西 寿志子先生



と実感します。

今年度は、初めて未満児クラスを経験させていただくことになりました。私自身娘が2人いるため子育ての経験はありますが、久しぶりの赤ちゃんのお世話に日々奮闘しながらも、毎日楽しく過ごしています。数年後、この子たちの立派に成長した姿が見られることを楽しみにしながら、日々の成長と一緒に喜び合っていけるよう努めていきたいと思っています。

子ども達に日々元気をもらっています。

中央文化保育園の保育教諭になり8年目を迎えました。私自身、子育てをしながら保育教諭として働く毎日を送っています。私は未満児クラスを担当することが多く、子どもたちの成長や変化を日々感じたり目にするがあります。春、保護者から離れられず泣いていたお友だちが少しずつ園生活に慣れ笑顔を見せてくれる様になったり、「せんせい」と呼んでくれる様になったり、今まで難しくて出来なかった事が「できたね!」と一緒に喜ぶことなど1つ1つの成長に心がポツとあたたかくなります。

幼保連携型認定こども園中央文化保育園
張山 郁美先生



普段の保育では焦ってしまう事や、もっと注意が必要だったのではないだろうか?と迷い反省する点もまだまだありますが、園長先生や周りの先生方からのアドバイスと協力に助けられて自身も成長していけたらと思っています。

世の中はコロナ禍で暗いニュースや我慢をしなくてはいけない状況が続いていますが、子どもたちとのふれ合いの中で喜びや元気をもらい過ごしていきたいと思っています。

4歳児担任として

新年度が始まって2か月、今年は年中ちゅうりっぷ組の担任となりました。「先生おはよう!」と元気に登園してくる子どもたちの笑顔に、毎日癒されています。

早いもので保育教諭になって10年以上が過ぎ、私自身も2児の母となりました。子育てと仕事とで忙しい日々を送っていますが、子育ての経験を活かし、日々の保育に役立てていけたらと思っています。自分の保育を振り返り、よりよい保育とは何かを考え、子どもた

幼保連携型認定こども園浦町保育園
山口 桂加先生



ちと同じ目線に立ち、感動や発見と一緒に共有していきたいです。

これからも子どもたちのできた!に寄り添い、たくさんいいね!を見つけられる先生でいたいと思います。保育園が子どもたちの生きる力の基礎となる学びの場、遊びの場となるよう、私自身も日々学びの姿勢で頑張っていきたいと思っています。

附属幼稚園創立50年を記念して

マスコットキャラクター

「バンビー」が誕生しました。

幼稚園の園歌に出てくる「こじかのばんびちゃん♪」より、子どもたちにもたくさん呼んでもらいたいことから「バンビー」と名付けられました。



「バンビー」の**性格**は、

いつも元気で好奇心旺盛・天真爛漫で「思ったことははっきりと話す」・「自分のことは自分でやる」頑張り屋さん・誰とでも仲良く遊ぶことができる人なつつこい性格です。

「バンビー」の**特徴**は、

「よく見 よく聞き よく考える」

から**大きな耳**

「友だちと仲良く遊ぶ」

楽しいことや仲良くなれそうなお友だちをかぎ分ける鼻

こぶしの花の花言葉「友情」「友愛」

たくさんのお友達を呼んでくれる



各園の園カラーで、これからの未来に向かっていく子どもたちに寄り添い、一緒に歩いていく!!
いつも近くで「バンビー」が見守っています♪

青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校

職業実践専門課程 委員会

2021年3月5日、青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校では、2020年度第2回となる職業実践専門課程に係わる学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会を開催しました。職業実践専門課程とは、企業等と密接に連携し、最新の知識・技術・技能を身につけられる実践的な職業教育へ取り組む学科に対し、文部科学大臣が認定をするもの。委員会では、それぞれの職業分野へ精通する委員に参集いただき、最近の業界動向や必要とされるスキル・資格等、今後学生が修得すべき内容を話し合いました。協議の結果は、2021年度のカリキュラムにも反映され、更なる専門性の強化へと繋がる機会となりました。



専門学校入学式・オリエンテーション

2021年4月7日、2021年度の専門学校入学式が行われました。当日は新型コロナウイルス感染症予防対策として出席者を限定し、22名（中央経理：15名、中央文化：7名）の新入生を迎い入れました。新入生らは緊張した面持ちで、2年間の専門学校生としての第一歩を踏み出しました。

また、4月8日と9日にはオリエンテーションを行いました。校長先生からの教育方針説明から始まり、学務ガイダンス、シラバス説明、自己紹介、学園が設置している各センターからのガイダンス、サークル紹介、外部講師講話などのプログラムを実施し、今年度の学校生活がスタートしました。



入学前セミナー開催

入学予定者を対象とした「入学前セミナー」を2020年12月と2021年3月に開催しました。

入学前セミナーは2020年3月に初めて開催をする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の全国への拡大を受けて、開催を断念する結果となり、2020年度は無事に開催できるか不安でした。しかし、入構前検温、各箇所へのアルコール消毒液の設置と使用箇所の消毒、ソーシャルディスタンス等の感染拡大対策をとりながら、12月には指定校推薦合格者が全員参加し、グループワークを実施しました。

また、3月には全試験区分合格者全員が集まり、プログラムを無事に実施することができました。出身学校や入学学科・専攻・コースが違っていても、同じ場所で会話をしている場面を見て、一足早く春を感じました。



専門学校卒業式を挙行

2021年3月20日に「2020年度専門学校卒業式」が挙行されました。今回は規模を縮小する等、感染拡大防止対策を講じながらの実施となりました。

石田憲久校長が「身につけた技術を基に、常に向上心を持って、しかし、おごることなく、謙虚に力を積み重ねていき、真のプロフェッショナルになることを期待しています」と式辞。

また、終了後に青森中央経理専門学校の卒業発表表彰と、中央経理・中央文化両専門学校の卒業生から「2年間で振り返って」の発表が行われました。発表では、卒業生が自分たちで作成したスライドを使用して、学校行事等を振り返り懐かしんでいました。

最後に、出席していた各先生方からひとつづつ挨拶をいただき、卒業生は学び舎を後にしました。





卒業制作発表

2021年2月1日、青森中央経理専門学校では卒業制作発表を行いました。2年生22名が各コースで学習してきたことを踏まえて各々テーマを設定し、プレゼンテーションソフトを使用して発表を行いました。プレゼンテーションソフトを使用しての発表に学生たちは、スライドの切り替えのタイミングや話すスピードなどに気を付けながら本番に臨みました。また、発表後には質疑応答も行われ、聴講者からの質問に対して、学生たちは自分の意見や考えを分かりやすく伝えるように答えていました。

後日、提出してもらったレポートには、「緊張した」や「もう少しゆっくり話せばよかった」などの感想があり、学生たちにとって良い経験になったと思います。



針供養

2021年2月8日、7号館フリースペースにて、針供養にちなみ、「青森田中学園感謝祭」を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、青森中央文化専門学校、青森田中学園教職員で執り行いました。

この日は1日針を休み、1年間使った針への感謝と裁縫技術が上達するようにと祈りを込め、折れた針、曲がった針を柔らかい豆腐に刺して供養しました。また、神事に於いて各設置校で日頃から学習や生活に使用しているものを奉納し、感謝文を捧げました。

感謝祭終了後は、廣田神社宮司の田川伊吹様より講話として神事についての由来や解説、針供養についてのお話をいただきました。針供養を通して物に感謝する気持ちを再認識することができました。



おススメ図書

青森中央経理専門学校 推薦
鈴木 伸吾 先生

観光再生

サステナブルな地域をつくる28のキーワード

村山慶輔 著 (プレジデント社)

「インバウンド」というワードも定着し、2020年は、観光業界においてエポックメイキングの年になる予定であった。しかしコロナウイルスで、一変。商店街や観光地等で外国人を見かけるコロナ前のような光景は今ない。

著者は「インバウンドはバブルではなく、トレンドである」とし、インバウンドという新たなマーケットが、日本や地方の経済成長の原動力となると考える、インバウンドビジネスコンサルタントの村山慶輔さん。

インバウンドの切り口のみならず、サスティナブルツーリズム (持続可能な観光) や地域教育・シビックプライド (まちのために自ら関わっていこうとする気持ち) など28のキーワードにより、コロナをとりまく観光のあり方だけでなく多様な業種で求められる視点が養われると思います。マスツーリズムからの脱却を宣言したウィーン、観光客に100ドルの税金と誓約文への署名を課すパラオ等、日本人の「観光」の概念では驚く具体的事例が満載です。今後の観光は「量より質」への流れが加速していくと考えられます。

卒業生ピックアップ

(株)スタニングルアー Ank Rouge
ルミネ池袋店勤務 販売スタッフ

蒔苗 菜月さん

(青森中央文化専門学校 ファッション販売専攻 2018年度卒業)

私は、大好きなブランド「Ank Rouge」へ就職するため、青森中央文化専門学校のファッション販売専攻を選択しました。授業では、アパレル商品の基礎知識はもちろん、ロールプレイングや実店舗での接客に加え、期間限定のショップ運営やスタイリングブックの編集・発行など、たくさんの実践的な知識や技術を学びました。その中で得た貴重な経験は、現在の業務へ十分に活かしていると実感しています。青森中央文化専門学校で学んだ事を糧に、お客様に喜んでいただける店舗作りへ日々取り組んでいきます。



2020年度 卒業式

大学・大学院と短期大学の卒業式は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、規模を縮小して卒業生と役員・教職員のみ参加とし、保護者の方には、式典の様様をYouTubeで配信しました。

青森中央短期大学

2021年3月15日、春らしい陽気のなか、2020年度学位記・修了証書授与式が挙行されました。



青森中央学院大学・大学院

2021年3月17日、時折雪が舞う中、2020年度学位記・修了証書授与式が挙行されました。



青森中央経理専門学校

青森中央文化専門学校

2021年3月20日、穏やかな春分の日、2020年度卒業式が挙行されました。



幼稚園バスが
新しくなりました

2021年4月、青森中央短期大学附属幼稚園のバスが新しくなりました。新しいバスには、園児が日ごろ目にして親しんでいる附属幼稚園マスコットキャラクターの「バンビー」を配置しました。バスに乗ることを楽しみにしてくれるような、ポップで楽しいデザインを採用しています。また、開園50年のお祝いの気持ちを込めて、風船もあしらいました。新しいバスの稼働にあたり、これから園児たちを安全に送り届けられるようにと、学園キャンパス内で交通安全祈願を行いました。これから毎日の通園はもちろん、日々の行事等にも大活躍します。



2021年度 入学式

大学・大学院と短期大学の入学式は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、規模を縮小して新入生と教職員のみでの入学式を行い、保護者の方にはYouTube配信で式の様子をご覧いただきました。



大学



短大

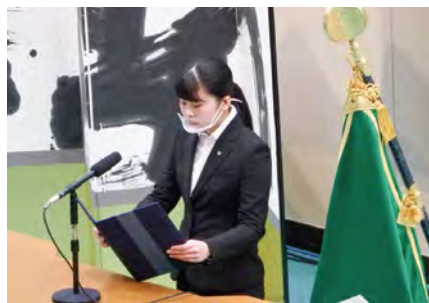
青森中央学院大学・大学院

2021年4月3日、経営法学部183名、看護学部84名、別科助産専攻5名、大学院5名の合計277名の新入生を迎えました。



青森中央短期大学

2021年4月3日、食物栄養学科61名、幼児保育学科57名、専攻科福祉専攻5名の合計123名の新入生を迎えました。



青森中央経理専門学校

青森中央文化専門学校

2021年4月7日、青森中央経理専門学校15名、青森中央文化専門学校7名の合計22名の新入生を迎えました。



新型コロナウイルス感染症への本学の対応について

本学園では感染症拡大の状況を踏まえ、適宜、必要な対策を講じていきます。学園ホームページで随時お知らせしますので、定期的な確認をお願いいたします。「新型コロナウイルスへの対応について」は、下記QRコードからご確認いただけます。



【新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご協力をお願いします】

- マスク着用と手洗い・消毒の徹底と検温・健康管理
- 「密閉」「密集」「近距離の会話」の三つの条件を避けることを基本方針とした授業環境の整備と学内換気の徹底
- 感染リスクが高まる学外活動の自粛

※感染拡大防止に向け、新型コロナウイルス接触確認アプリ (COCOA) の利用をお願いします。



最新情報は「青森田中学園における新型コロナウイルスへの対応について」をご確認ください。

新教職員紹介

青森中央学院大学

* 経営法学部



教授 **竹内 紀人** (たけうち のりと)
出身 青森県
担当 キャリア支援センター長、地域密着アクト、地域観光論、キャリアプランニング (経営法学部) 経済学特殊講義 (大学院地域マネジメント研究科)

地方銀行系シンクタンク出身の新人です。グローバルな視点を持ちつつ、常に「地域」を考えて参ります。



教授 **廣瀬 孝寿** (ひろせ こうじゅ)
出身 埼玉県
担当 民法関連科目

学問の場での学生の皆様との交流を通して、学生の皆様とともに成長していきたいと思ひます。



准教授 **楠山 大暁** (くすやま ひろあき)
出身 兵庫県
担当 統計学基礎、経済学課題研究I・II、財政学

公務員試験の指導を長く行ってきました。公務員試験の合格を目指している人、ぜひ、研究室に来てください!



講師 **姜 尚民** (かん さんみん)
出身 韓国
担当 中小企業経営論、地域経営論、経営学課題研究I、経営学入門

経営学という学問は難しくありません。これから皆さんと一緒にわかりやすく、楽しく学習していきたいと思ひます。



講師 **菅沢 大輔** (すがさわ だいすけ)
出身 宮城県
担当 不法行為法、危険責任論

自分がこれまで学んできたことを少しでも学生の皆さんにお伝えできればと思ひています。よろしくお願ひします。

* 看護学部



助手 **鎌田 千夏** (かまた ちなつ)
出身 青森県
担当 基礎看護学領域

学生のみなさんへこれまでの看護の経験を伝えていけるよう頑張りたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



助手 **福田 雅美** (ふくだ まさみ)
出身 青森県
担当 小児看護学領域

臨床での経験を活かしながら、学生のみなさんが看護師になれるようサポートしていきまひます。よろしくお願ひします。



助手 **木村 琴美** (きむら ことみ)
出身 青森県
担当 老年看護領域

青森中央短期大学看護学科・こぶし会館卒業生として、経験を生かし大切な学生生活を充実できるよう、精一杯頑張ります。よろしくお願ひします。

* 別科助産専攻



講師 **福士 文子** (ふくし ふみこ)
出身 青森県
担当 別科助産専攻

初めての教員という職業に不安がいっぱいですが、がんばります。

青森中央短期大学

* 幼児保育学科



助教 **前田 一明** (まえだ かずあき)
出身 青森県
担当 子どもの生活と音楽遊びI・II、保育の展開技術(音楽)I・II、保育実習指導等

専門である音楽はもちろんのこと、実習指導においても学生の皆さんが良い環境で学べるようサポートしていけたらと思ひています。どうぞよろしくお願ひいたします。

* 専攻科福祉専攻



講師 **杉田 由佳理** (すぎた ゆかり)
出身 青森県
担当 幼児保育・福祉専攻

学生の皆さんが素晴らしい対人援助の専門職者になるよう、丁寧にコツコツと、共に学びを積み重ねて行きたいと思ひます。

事務局



藤原 修 (ふじわら しゅう)
出身 岩手県
担当 進学アドバイザー(岩手県担当)

岩手県の勉学意識のある高校生が一人でも多く本大学に進学できるように活動したいと思ひます。宜しくお願いいたします。



富田 朋子 (とみた ともこ)
出身 青森県
担当 学務課

不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、1日でも早く皆様のお役に立てるよう努力いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。



野呂 遥香 (のろ はるか)
出身 青森県
担当 国際交流課

まだ不慣れな点が多いですが、留学生の皆さんの学生生活のサポート、そして日本人学生の皆さんの語学力向上のお手伝いのできるよう一生懸命務めて参ります。



三浦 さくら (みうら さくら)
出身 山形県
担当 入試広報課

早く仕事に慣れ、お役に立てるよう頑張りたいです。ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願ひいたします。



YU DIAN YING (ユー ディアン イン)
出身 マレーシア
担当 国際交流課

一日でも早くお役に立てるよう頑張ります。ご指導、よろしくお願ひいたします!



認定こども園青森中央短期大学附属幼稚園

* 認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園



小笠原 愛梨 (おがさわら あいり)

出身 青森県
担当 4歳児 たんぽぽ組

子どもたちと一緒に泣いたり、笑ったり、共に成長できるような保育教諭を目指して頑張っていきます。



加藤 奈緒美 (かとう なおみ)

出身 青森県
担当 2歳児 つくし組

子どもたちの“今”の気持ちを大切に、心がワクワクするような保育をしていきたいと思っています。



木村 百花 (きむら ももか)

出身 青森県
担当 0歳児 つぼみ組

私は、子どもの欲求が満たされるよう安全基地となり、心を動かしながら一人一人に寄り添う保育を行いたいです。

* 認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園



嶋元 ひまり (しまもと ひまり)

出身 青森県
担当 3歳児 さくらんぼ組

毎日笑顔を忘れず、子ども達と楽しく過ごし、また、周りの先生方と協力しながら保育をしていきたいです。



新山 綾乃 (にいやま あやの)

出身 青森県
担当 2歳児 いちご組

学んできたことを活かしつつ、先生方からも多くのことを学びたいです。また、子どもたち一人ひとりに合った関わりをしていきたいです。



田邊 芽瑛 (たなべ めばえ)

出身 青森県
担当 4歳児 もも組

毎日笑顔で子ども達を迎え、日々の園生活が楽しいと思ってもらえるよう保育に努めます。



早坂 美紀 (はやさか みき)

出身 青森県
担当 4歳児 もも組

子どもたちが毎日元気に幼稚園で過ごせるよう、私も笑顔で頑張りたいと思っています。

* 認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園



古川 莉子 (こがわり こ)

出身 青森県
担当 2歳児 かなりや組

子どもたちが充実した園生活を送れるよう、一人一人の個性を大事にし、寄り添いながら、笑顔いっぱい元気いっぱいで頑張っていきます。



藤本 佳奈 (ふじもと かな)

出身 青森県
担当 1歳児 うぐいす組

子ども一人一人に寄り添った保育をし、子どもや保護者の方との信頼関係を大切にしていきたいです。



三浦 淑香 (みうら よしか)

出身 青森県
担当 3歳児 こばと組

毎日笑顔で元気に、子ども1人ひとりに寄り添った保育ができるよう努めたいと思います。

幼保連携型認定こども園 中央文化保育園・浦町保育園

* 幼保連携型認定こども園中央文化保育園



奥崎 祈 (おくざき いのり)

出身 青森県
担当 2歳児 こりす組

毎日笑顔で子どもたちと触れ合いながら、日々保育する楽しさを忘れず頑張っていきたいと思っています。



神 未優 (じん みゆう)

出身 青森県
担当 1歳児 ひよこ組

子どもたちが毎日楽しく過ごせるように、元気いっぱい明るく頑張ります。

* 幼保連携型認定こども園浦町保育園



佐藤 望々香 (さとう ののか)

出身 青森県
担当 2歳児 たんぽぽ組

子どもに寄り添うことと、自分なりの保育ができるように、まずは保育業務を1日でも早く身につけられるように毎日を過ごしたいと思っています。



小倉 未来 (おぐら みく)

出身 青森県
担当 栄養士

子どもたちが食を楽しむことができるよう、行事やイベント食を大切に、思い出に残るような食事を提供したいです。



仙石 由姫余 (せんごく ゆきよ)

出身 青森県
担当 栄養士

アレルギーの有無に関わらず、みんなが美味しく食べられるような食事提供をしていきたいと思っています。

青森田中学園報「こぶしの花」第105号

発行日:2021.5.31

発行:学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL:017-728-0131

FAX:017-738-8333

<https://www.aomoricgu.ac.jp>

<https://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

木村 峰子 柿崎はるな

外崎 秀香 木村 貴子

鈴木 伸吾 坪谷 輝子

中田 尋美 岩葉 悦子

高橋 晴美 町田美智子



青森中央学院大学

青森中央短期大学

青森中央経理専門学校

青森中央文化専門学校

認定こども園 青森中央短期大学附属第一幼稚園

認定こども園 青森中央短期大学附属第二幼稚園

認定こども園 青森中央短期大学附属第三幼稚園

幼保連携型認定こども園 中央文化保育園

幼保連携型認定こども園 浦町保育園

「こぶしの花」掲載写真募集!

「こぶしの花」編集委員会では、青森田中学園報「こぶしの花」の表紙写真を募集しています。緑豊かな学園内での、四季折々の風景を題材とした在学生の皆さんの作品をお待ちしています。

■応募期間: 通年

■応募方法: 応募先メールアドレスに、

①件名「こぶしの花写真応募」②本文「学部学科・学籍番号・氏名・電話番号」を記入し、写真データを添付して応募ください。

なお、応募作品は、青森田中学園在学生が撮影した未発表のものに限ります。

掲載が決まりましたら、こちらから連絡いたします。

■応募先メールアドレス: kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp ※お問い合わせもこちらのアドレスまでお願いします。



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい